

管楽合奏は楽しい会？

プロの技術とアマの熱意が融合する理想のアンサンブルを目指しています

～小編成版 第1回～

2023年11月25日(土) 14:00開演 会場:GranDuoHall & Studio 荻窪

モーツァルト (1756～1791)	ディヴェルティメント 第13番 ハ長調 K. 253 (Ob)土屋・楠原(Fg)山田・阿部(Hn)市原・萩原
アントン・ライヒャ (1770～1836)	木管五重奏曲 ハ長調 作品 91-1 (Fl)信澤(Ob)山本(Cl)庄子(Fg)尾作(Hn)皆川
ミヨー (1892～1974)	ルネ王の暖炉 作品 205 (Fl)信澤(Ob)土屋(Cl)景山(Fg)山田(Hn)安松 (休憩)
ダンツイ (1763～1826)	木管五重奏曲 変口長調 作品 56-1 (Fl)岡添(Ob)楠原(Cl)兼氏(Fg)大石(Hn)萩原
ホルスト (1874～1934)	木管五重奏曲 変イ長調 作品 14 (Fl)岡添(Ob)山本(Cl)向山(Fg)森川(Hn)市原
ベートーヴェン (1770～1827)	六重奏曲 変ホ長調 作品 71 (Cl)兼氏・景山(Fg)阿部・大石(Hn)皆川・安松

「管楽合奏は楽しい会？」 小編成版 第1回の開催によせて

本日は私たちの演奏会にお越しいただきありがとうございます。今回は、小編成版の第1回と称しておりますが、「管楽合奏は楽しい会？」は、指揮・ファゴットの森川氏が始められ、56回の開催を数えております。ここ15年ほど、管楽合奏としては規模の大きい9～10人程度の曲を中心に年2回開催してきましたが、前回5月の演奏会時に、今後年1回の開催としたいとのお話が、氏より正式にありました。その折、心から楽しんで合奏のできる素晴らしい仲間が集まっているのに、年1回の開催ではもったいないという話が会員の中から上がりました。そこで、自分たちで運営して氏の負担を減らし、最近あまり演奏していない小編成の曲を中心に開催しようということになり、本日に至りました。今後は、氏が主催する春の演奏会と、自分たちで主催する秋の演奏会という形で続けていきたいと考えております。よろしくご支援をお願いします。

本日は五重奏、六重奏の名曲を演奏いたします。お楽しみください。

(Fg)阿部憲一

出演者の簡単なプロフィール(楽器別 50 音順)

(Fl) 岡添 隆 (おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。普段は某メーカーのシニアフェローとして研究活動を行う傍ら、東京大学工学部非常勤講師として工業化学の講義を担当し後進の指導にもあたっている。研究と音楽の二刀流は成り立つ、が信条。アンサンブル・メゾンに所属。

(Fl) 信澤達也 (のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団(2009~2014は団長)で活動。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので運動不足が気になる気になる昨今である。現在、職場のビッグバンドでは何とバストロンボーン兼コンサートマスターとして活動中。

(Ob) 楠原千佳子 (くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。週末は存分に音楽を楽しみ、平日はまちづくりの仕事に従事する日々。

(Ob) 土屋英晃 (つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、蟷崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏要員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属、柏市音楽家協会会員。

(Ob) 山本悦子 (やまもと えつこ)

川崎市出身。中学校の吹奏楽部でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団でオーケストラを始める。現在は大田区のオーケストラに所属。勤務先の大学病院では広報の担当をしている。自他ともに認める無類のパンダ好きで、シャンシャンとレイレイの名付け親の一人である。

(Cl) 景山賢嗣 (かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダンゲダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当これからの管楽合奏は楽しい会?を担うメンバーの一人として、指揮者も兼任する。

(Cl) 兼氏規雄 (かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリスト代表。フルスヴァルト合奏団同人。

(Cl) 庄子穂奈美 (しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦の両氏に、室内楽を太田茂氏に師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Cl) 向山尚志 (むこうやま たかし)

12歳よりクラリネットを始める。東京大学入学と同時に音楽部管弦楽団に所属、この間にクラリネットを故・浜中浩一氏ほか師事。1974~2003年まで東京アマデウス管弦楽団に所属。2002~03年に当会に参加後、仕事の都合で東京を離れたが、2017年に復帰して以降は全て参加している。

(Fg) 阿部憲一 (あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを光永武夫氏、森正彦氏、日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。大手化学会社に42年勤務し、2022年に退職。音楽を中心に、毎日日曜の生活が始まった。ボケ防止と、健康寿命を延ばすため、体力と筋力の強化も課題。忙しくしている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人。

(Fg) 大石龍巳 (おおishi たつみ)

京都大学交響楽団で活躍する。阿部氏の後輩にあたる。現在はアンサンブル・メゾン、管楽合奏は楽しい会?で演奏活動中。本業は横浜の鉄道会社に勤務し、みなとヨコハマの魅力を発信中。エキゾチックな港町横浜に是非お出かけください。

(Fg) 尾作拓郎 (おさく たくろう)

神奈川県出身。法政二高等吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人。

(Fg) 森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会

を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表。

(Fg) 山田祐理 (やまだ ゆうり)

10歳くらいまでヴァイオリン、中学でユーフォonium。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。普段は大学教員(物理化学)として働いている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人。

(Hn) 市原秀紀 (いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介、井上華の両氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスの

メンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル”Strudel Hornisten”を主宰している。

(Hn) 萩原裕人 (はぎわら ひろと)

中学からホルンを始め、その後東京大学音楽部管弦楽団に参加。社会人となってからは勤務先各地(東京、名古屋、ニューヨーク)でオーケストラ等に参加し、現在は東京アマデウス管弦楽団を中心に活動中。楽器を始めて20余年、安定感のある演奏を目指して精進中。

(Hn) 皆川理恵 (みながわ りえ)

9歳よりホルンを始める。東京音楽大学音楽学部ホルン科卒業。守山光三氏、富成裕一氏、湯川研一氏に師事。木管5重奏団アンサンブル・アクアのメンバー。ヤマノミュージックサロン 柏 講師。またフリー奏者としても活動中。

(Hn) 安松航太 (やすまつ こうた) 初参加!

愛知県名古屋市出身、同志社大学文学部卒業。某管楽器専門店を経て、現在は情報機器商社に勤務。高校からホルンを始め、京都大学交響楽団でオーケストラを経験。これまでに小山亮氏、大森啓史氏に指導を仰ぐ。「ほりほりオーケストラ」に所属し、埼玉県さいたま市を中心に活動している。上も吹けるようになりたい下吹き。

曲目紹介

モーツァルト:ディヴェルティメント 第13番 八長調 K. 253

1775年7月から1777年1月までの間にモーツァルトは六重奏(オーボエ、ファゴット、ホルン各2本)のディヴェルティメントを5つ作曲した。ザルツブルクの司教のための食卓音楽として作られたと考えられている。その中の1曲K. 253は、ピアノ協奏曲第8番と同じ年、1776年の作曲。モーツァルトはまだ20歳であったが、この年までに交響曲は第30番まで作曲されていた。前述の5曲の中で

K. 253は唯一の3楽章作品(他の4曲は4つの楽章を有する)。なお、第1楽章はAndanteの主題とそれに続く6つの変奏曲だが、6番目の変奏は最初のAndanteのテーマがAllegrettoで演奏されるだけである。

- I. Andante
- II. Menuetto
- III. Allegro assai

アントン・ライヒャ:木管五重奏曲 八長調 作品91-1

アントン・ライヒャ(ドイツ名。チェコ名:アントニン・レイハ、フランス名:アントワーヌ・ライシャ)は、1770年にチェコでストリート・ミュージシャンの息子として生まれた(ベートーヴェンと同じ年)。父は早死にし、母は再婚したため、11歳のときに祖父のもとへ、その後15歳のときにドイツでチェロ奏者・作曲家として活躍していた叔父ヨーゼフ・ライヒャに引き取られた。1785年、ケルン選帝侯マクシミリアンの宮廷楽団のフルート奏者としてボンに移り、その楽団でヴィオラを弾いていたベートーヴェンと同僚になった。1789年、ベートーヴェンとともにボン大学に入学したが、フランス革命軍によってボンが占領され、宮廷楽団が解体されたためにハンブルクに移り、ピアノと作

曲の教師になった。1801年からウイーンに移りベートーヴェンと再会、1808年からはパリに移り住んだ。1817年、パリ音楽院の作曲科教授となり、リスト、ベルリオーズ、グノー、フランクらを育てた。25曲ある木管五重奏曲のうち最初の1曲以外は6曲ずつのセットで、1817年から1820年にかけて出版されている。作品91は2つ目のセットで、1819年に出版された。その第1曲八長調は、作品91の中で演奏機会が多いもののひとつ。

- I. Allegro Moderato
- II. Andante
- III. Menuetto Allegro
- IV. Rondo Finale Allegro

ミヨー:ルネ王の暖炉 作品205

ダリウス・ミヨーは1892年に、南フランス プロヴァンス地方のAix-en-Provence(エクサン・プロヴァンス。プロヴァンスの人は「エクス」と呼ぶ)で音楽協会の中心人物を務める富裕なユダヤ人の父と、かつてパリで声楽を学んでい

た母との子として生まれた。1909年にパリ音楽院に入学して作曲を学んだが、第一次世界大戦が勃発し、1915年、外交官秘書となった。その後、ブラジル大使に随行して、1917年から1918年末までブラジルで生活した(このときの経験

が『屋根の上の牛』に現れている)。1920年代後半から、第二次世界大戦の影響を避けて米国に移る1940年までの間は劇音楽と映画音楽も手掛け、レーモン・ベルナル監督による1940年のフランス映画Cavalcade d'amour(愛の騎馬旅行。1951年の日本公開時の題名は『第三の接吻])の音楽も担当した。この映画は3つの時代の恋愛模様を描いており、ミヨー、オネゲル、デゾルミエールの3人が各時代の音楽を担当していた。ミヨーが中世の場面を担当したのは、ミヨーの故郷エクスに15世紀のプロヴァンス伯ルネ1世の中世の城と宮廷があることと関係していると思われる。その映画音楽(作品204)から、7曲からなる組曲に編んでも

ダンツィ:木管五重奏曲 変ロ長調 作品56-1

フランツ・ダンツィは1763年に、バイエルン宮廷楽団の首席チェロ奏者だったイタリア人のインノチェンツォ・ダンツィの息子として生まれた。1778年にミュンヘンに新設された国立劇場のメンバーとなり、作曲活動もこの地で始めた。1807年にシュトゥットガルトの学長となり、1812年に当地の音楽院長になると同時にカールスルーエの宮廷楽長となり、当地ではウェーバーと親交を深めた。ダンツィはドイツ語のオペラの興隆に尽くし、23曲におよぶジングシュピールはウェーバーの歌劇に影響を与えた。しかし今日

ホルスト:木管五重奏曲 変イ長調 作品14

グスターヴ・ホルストは1874年、イングランドのグロスターシャー州チェルトナムに生まれた。祖父・父も音楽家という家系で、幼いころから父から音楽を学び、10代からすでに作曲を行っていた。1893年、ロンドンの王立音楽院に入学してパリーヤスタフォードの下で学んだ。1898年にカール・ローザ・オペラのトロンボーン奏者および音楽教師の職を得た。1905年から没するまで約30年にわたってロンドン西部のハマースミスにあるセント・ポール女学校の音楽教師の仕事の傍ら作曲活動を行った。組曲『惑星』(1914-1916)が際立って有名だが、1903年の作品である木管五重奏曲はそれとは対極的な、しかしホルストの作風の

ベートーヴェン:六重奏曲 変ホ長調 作品71

クラリネット、ホルン、ファゴット各2本からなる六重奏による4楽章構成の曲。「傑作の森」(ロマン・ロラン)のさ中1810年の出版(ちなみに、前後の作品番号は、作品70がピアノ三重奏曲第5番『幽霊』と第6番、作品72が歌劇『フィデリオ』)であるが、作曲されたのはもっと以前、1796年で、交響曲第1番もまだ作曲されておらず、ピアノソナタもまだ第3番までであった。ベートーヴェンは1792年にボンからウィーンに出て、まずピアニストとして名声を獲得し、その後作曲家としても活躍し始め、1796年の時点ですでに作曲家としても高い評価を得ていた。六重奏曲の作曲にあたっては、ちょうどこのころにウィーンにやってきたクラリネットの名手ヨーゼフ・ベア(1770-1819)から影響を受けたと考えられている。ベアは当時人気があっ

のが「ルネ王の暖炉」(エクスには、冬の間もよく日が当たって風が当たらず暖かい場所があって、ルネ王はそこへ毎日のように出かけたという逸話にちなんで、その場所が「ルネ王の暖炉」と呼ばれていた)。

- I. Cortège (行列)
- II. Aubade (オーバード、朝の歌)
- III. Jongleurs (軽業師)
- IV. La Maousinglade (ラ・マウザングラード)
- V. Joutes sur l'Arc (アルク川の馬上試合)
- VI. Chasse à Valabre (ヴァラブルでの狩り)
- VII. Madrigal nocturne (夜のマドリガル)

ではダンツィのジングシュピールは忘れ去られ、管楽器のための協奏曲や室内楽でその名を知られている。木管五重奏曲は3曲ずつのセットが3つあり、1821年に出版された作品56は最初のセットで、その1曲目は古今の木管五重奏曲の中でもっとも有名な曲のひとつ。

- I. Allegretto
- II. Andante con moto
- III. Menuetto Allegretto
- IV. Allegro

もうひとつの軸であるイギリスの古い民謡の雰囲気をもつ作品。なぜか、ホルストの生前に演奏されたことは無かったが、1978年にこの作品が再発見され、作曲家・指揮者・音楽学者でホルストの娘イモーゲン(Imogen, 1907-1984)によって出版された。今では、木管五重奏の重要なレパートリーのひとつとなっている。

- I. Allegro moderato (un poco rubato)
- II. Adagio
- III. Minuet (in Canon) Allegretto
- IV. Air and Variations

た管楽合奏によるハルモニウムジークで有名なエツティンゲン=ヴァラーシュタイン侯爵の宮廷楽団で活躍していた。ちなみにベートーヴェンにはハルモニウムジーク編成(オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン各2本)の八重奏曲作品103があるが、こちらのほうは作曲がボン時代の1792年以前、改訂が1793年(その後1796年に弦楽五重奏に編曲して作品4として出版)、八重奏曲としての出版はベートーヴェンの死後の1830年なので作品番号は103となっている。

- I. Adagio - Allegro
- II. Adagio
- III. Menuetto: Quasi allegretto
- IV. Rondo: Allegro